

あ と が き

昨年は夏の7.13水害、秋の10.23中越大震災、そして冬の豪雪とトリプルパンチであった。海外ではスマトラ沖地震による大津波の被害が報じられ、最近では、アメリカ南部を襲った大型ハリケーン“カトリーナ”と“リタ”、カトリーナでは民間の老人ホームの入居者が避難できずに多数水死されたとメディアに放映されていたところです。

幸いこの度の水害、中越大震災では、被害の程度にもよりますが、多くの職員自身が被災したにも拘わらず、いち早く施設にかけつけ救援活動に従事しながら頑張り、“利用者優先主義”を貫き通したことに社会福祉法人職員としての大切な使命感を見る思いでした。

“災害は忘れた頃にやってくる”という言い伝えがありますが、昨今では“忘れる前にやってくる”状態の感がしてなりません。

改めてこの度の各施設の惨状をみるにつけ、職員の使命感と自己犠牲に頼ること無く、二度とこのような体験をせずに済む方法は無いものかと記録集を参考に考えますと、やはり高齢者施設は地域の福祉拠点であるばかりでなく、災害時の地域防災拠点であるべきだということです。

どんな時でも高齢者施設は地域の安全、安心の拠点でもあるということを再認識させられました。

具体的にはどんな災害であっても、いざという時には、地域の人達も職員家族も、ペットも全てが一時的であるにせよ避難できる空間と堅牢な建物であることです。

今回の地震で小規模多機能施設やグループホームがことごとく特養に避難せざるをえなかった事実がこのことを如実に物語っております。

これを実現するには少なくとも地震に強い建物、水害に強い高層建、火災に強い材質、積雪過重に耐えうる建物、と資金力が不可欠となります。

巷では施設解体論が出まわり、補助金が削られ、介護報酬が減少する中、これら安全、安心の拠点作りをするには並大抵でない覚悟と努力が必要であるということは言うまでもありません。

この度、県老協協焔山会長より震災による貴重な体験の中から学んだことを整理し、再び起こるかもしれない大災害への一助とするためと、今秋10月地元新潟市朱鷺メッセを会場として行われる老協協全国大会に向けて広く各県関係者に知って貰う為、特に被害の多かった第三ブロックを中心として震災記録集としてまとめてみてはどうかとの依頼があり、早速第三ブロックの皆様方の御協力、御支援を得て短い期間ではありましたが、漸く完成致しましたので皆様方にここで報告させて頂くとともに、この報告集作成にあたり忙しい中頑張って貰ったスタッフに感謝し、あとがきとさせていただきます。



震災対策プロジェクトチーム
委員長

近 藤 和 義

Kondou Kazuyoshi